

中央線を越えても自覚がない。事故を起こしたことを忘れていた一。認知症ドライバーバ

一の特徴だ。記憶力や判断力が低下し、思わぬ事故に付きなが

りかかわらず、運転をやめてほしいと願う家族は多い。本人とどう向き合えば良いのだろうか。

### 認知症ドライバーは「多岐にわたる特徴」

- どこへ行くつもりとしているのか
- 事故を起こしたことを忘れる
- サイン・レーンを越えて蛇行
- 運転する
- 交通標識や信号などの交通標
- 則を守る気がなくなる
- 一定の車間距離をとる気がなくなる
- 車庫入れができない
- 逆走する

(出典：国土親大の所正文教教授「高齢ドライバー―激増時代など」)

求められる高齢者講習を  
うらしてしまっただ。一  
美さんは「教習所に不  
合格」と言うでもらいた  
かつた」と後悔する。

岩手県の佐藤隆さん  
(54)は同じく、脳血管  
性認知症になった(88)  
を、免許の更新を怠る  
まも転倒した。父は坂道  
でサイドブレーキをひ  
ずして駐車し自分の車は  
かめるなどの事故を起こ  
すまもなごころに「他  
人を巻き込まないとい

## 意味や目的を考えて

警察は3000名時  
時、運転免許を保持して  
いる認知症の運転者数を  
30万人と推定した。国土  
親大の所正文教教授(交通  
心理学)は、免許保有率  
の高い団塊世代が高齢に  
なり、さらに増えている  
可能性がある」と指摘。研  
究の進展も遅く「どう  
いう症状が運転行動に  
どう結びつくのか、そのた  
めになんか運転を開始  
すべきか、また分らない  
ことは多い」と語る。

昨年6月からの運転免許  
を更新する際、75歳以上  
の高齢ドライバーに認知

### 認知症と運転免許



所正文・教授  
国土親大

運転免許が交付され  
たが、正確な判断は難し  
いといわれる。日本交通  
心理学会の運営委員を務  
める石川博也・中央自動車  
専任教(盛岡市)社長は  
「緊わしい場合は、年齢  
に関係なく認知機能検査  
を受けさせるべきだ」と  
語る。

「認知症の人と家族の  
会」神奈川県支部は昨年  
9月、会費を対価として  
ゲートを実施した。世話

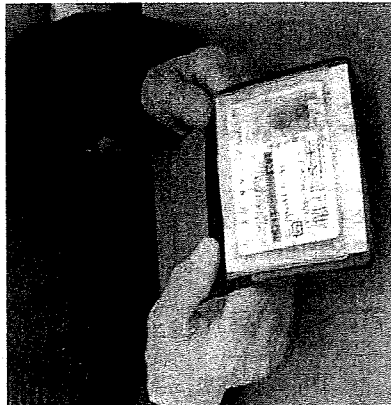
人村和正さんは「何  
十年も無事故で運転に自  
信を持っている人が多  
く、免許の更新には抵抗  
がもたよだ」と分析。  
「高齢者にとって運転手  
るとは自立の象徴。漸  
進に運転を止めるのではな  
く、精神的サポートや代  
替手段が必要だ」と話  
す。

坂本一美さん(74)は  
坂本一は1年半前、夫  
(76)の遺囑後に移り住  
んだ川崎から神奈川県  
に引っ越した。車好きの  
夫がアルハイム型認知  
症と診断されたから  
だ。山小屋暮らしに必要  
だった車は、本人の知ら  
ない間に売却。しかし夫  
以外の生活がいや移動の  
は昨年8月、免許を更新  
する際に75歳以上の人に  
切だ」と話している。

「この家族の不安を  
受け入れた。隆さんは  
「身近な家族の話し聞か  
ないことだ。」「第三  
者に言われた方が楽な  
るかも」と語る。

国立長寿医療センター  
院長岡野・在宅医療研究  
部の善井出典子部長らの  
厚生労働省研究班は、  
認知症の重症化や事例  
に基づいた処方、運転  
行動のチェック項目など  
(76)の遺囑後に移り住  
んだ川崎から神奈川県  
のホームページ上で公  
開、全国の自治体にも配  
布する。

善井部長は「運転する  
際の目的を考え、運転  
以外の生活がいや移動の  
手配を要する」とが  
切だ」と話している。



「夫は認知症なのに...」。坂本一美さん(仮名)  
が手にするのは、更新された夫の運転免許証

# 運転の意味、目的を考え

中央線を越えても自覚がない。事故を起こしたことを忘れていた。認知症ドライバーの特徴だ。記憶力や判断力が低下し、思わぬ事故につながりかねず、運転をやめたいと願う家族は多い。本人どう向き合えば良いのだろうか。

警察庁は2005年時点で、運転免許を持っている認知症の高齢者を30万人と推定した。国士館大の所正文教授(交通心理学)は、免許保有率の高い団塊世代が高齢になり、さらに増えている可能性があるという指摘。研究の蓄積も乏しく、この症状が運転行動にどう結びつくのか、そのためにどういった検査を開発すべきか、まだ分らないことは多い」と話す。

昨年6月から運転免許を更新する際、75歳以上の高齢ドライバーに認知機能検査が義務付けられたが、正

## 認知症ドライバーと向き合う

確な判断は難しいといわれる。日本交通心理学会の運営委員を務める石川淳也(盛岡市)は「疑わしい場合は、年齢に関係なく認知機能検査を受けさせるべきだ」と語る。

「認知症の人と家族の会」神奈川支部は昨年9月、会員を対象にアンケートを実施した。世話人田村加代子さんは「何十年も無事故で運転に自信を持っている人が多く、免許の返納には抵抗があるようだ」と分析。「高齢者にとって運転することは自立の象徴。簡単に返納させるのではなく、精神的フォローや代替手段が必要だ」と話す。

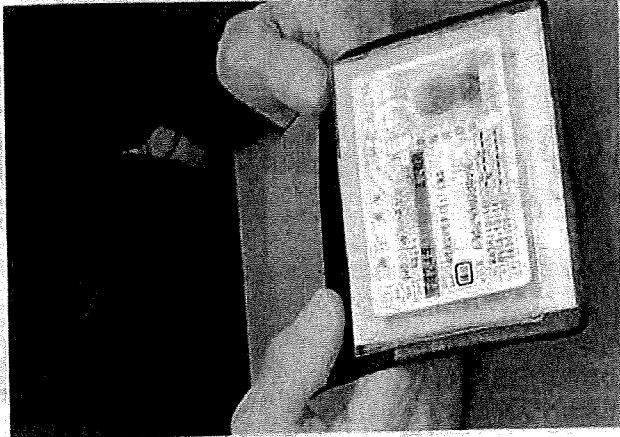
坂本一美さん(74)は仮名。11年前、夫(70)の退職後に移り住んだ山梨県から神奈川県に戻ってきた。車好きの夫がアルツハイマー型認知症と診断されたからだ。山小屋暮らしに必要だった車は、本人の知らない間に売却。しかし夫は昨年5月、免許を更新する際に70歳以上の人に求められる高齢者講習をクリアしてしまった。一美さんは教習所に「不合格」と言ってもらいたかったと後悔する。岩手県の佐藤隆さん(54)は同じく、脳血管性認知症になった父(88)を、免許の更新を見送るよう説得した。父は坂道でサイドブレームをかけずに駐車し自分の車にひかれるなどの事故



を起すようになった。他人を巻き込まない方がいい」とその家族の忠告を徐々に受け入れた。隆さんは身近な家族の話は聞かないことが多い。第三者に言われた方が効果があるかも」と話す。

国立長寿医療センター長寿政策・在宅医療研究部の荒井由美子部長らの厚生労働科学研究班は、認知症の基礎知識や事例に基づいた対処法、運転行動のチェック項目などをまとめた、家族のための支援マニュアルを同部のホームページ上で公開、全国の自治体にも配布する。

荒井部長は「運転する意味や目的を考え、運転以外の生きがいや移動の手段を見つけていくことが大切だ」と話している。



「夫は認知症なのに…。坂本一美さん(仮名)が手にするのは、更新された夫の運転免許証

### 認知症ドライバーには多くみられる特徴

- 道を行こうとしていない
- センターラインを越えて蛇行運転する
- 交通標識や信号などの交通規則を守る気がなくなる
- 一定の車間距離をとる気なくなる
- 車庫入れができない
- 逆走する

(出典：国士館大の所正文教授「高齢ドライバー：激増時代など」)

## ◆ ニュース情報 ◆

国立長寿医療センター（愛知県大府市）長寿政策・在宅医療研究部は、車の運転を続けてきた高齢者が認知症になった場合の対処法を家族にアドバイスするマニュアルを作成した。無料でダウンロード配布している。

同センターが3年にわたって認知症の人が運転するリスクや社会支援の在り方などについて研究してきた成果を生かした。認知症の

### \* 認知症ドライバーへの対処法

原因別の運転の特徴や、運転をスムーズにやめてもらうためのノウハウ、運転をやめた後の接し方などのアドバイスをイラスト付きで分かりやすく解説、事例紹介もある。

入手は同センターのホームページから。アドレスは<http://nils.go.jp/department/dgp/index-dgp-j.htm>

# 返納に心のフォローを

## ほかの生きがい大事

### 認知症ドライバーと運転免許証



中央線を越えても自覚がない。事故を起こしたことを忘れていた。認知症ドライバーの特徴だ。記憶力や判断力が低下し、思わぬ事故につながりかねず、運転を止めてほしいと頼む家族は多い。本人とどう向き合えば良いのだろうか。

警察庁は2005年時点で、運転免許を持つている認知症の高齢者数を30万人と推定した。国土領大の所正文教授(交通心理学)は、免許保有率の高い団塊世代が高齢になり、さらに増えている可能性があるという指摘。研究の蓄積も乏しいという症状が運転行動にどう結びつくのか、そのためにどういった検査を開発すべきか、まだ分からないことが多い」と話す。

昨年6月から運転免許を更新する際、75歳以上の高齢ドライバーに認知機能検査が義務付けられたが、正確な判断は難しいといわれる。日本交通心理学会の運営委員を務める石川淳也・中央自動車学校(盛岡市)社長は「疑わしい場合は、年齢に関係なく認知機能検査を受けさせるべきだ」と語る。

#### 認知症ドライバーに多々みられる特徴

- どこへ行くつもりか分からない
  - 事故を起こしたことを忘れる
  - センターラインを越えて蛇行運転する
  - 交通標識や信号などの交通規則を守る気がなくなる
  - 一定の車間距離をとる気がない
  - 車庫入れができない
  - 逆走する
- 【出典：国土領大の所正文教授(高齢ドライバー・激増時代など)】

「夫は認知症なのに、坂本一美さん(仮名)が手にするのは、更新された夫の運転免許証

と分析。「高齢者にとって運転することは自立の象徴。簡単に返納させるのではなく、精神的フォローや代替手段が必要だ」と話す。

坂本一美さん(44)は1年半前、夫(75)の退職後に移り住んだ山梨県から神奈川県に戻ってきた。車好きの夫がアルツハイマー型認知症と診断されたからだ。小山屋暮らしに必要だった車は、本人の知らない間に売却。しかし夫は昨年5月、免許を更新する際に70歳以上の人に求められる高齢者講習をクリアしてしまっ

た。若手県佐藤隆さん(54)は「他人を巻き込まない方がいい」との家族の忠告を渋々受け入れた。国立長寿医療センター長寿政策・在宅医療研究部の荒井由美子部長らの厚生労働科学研究班は、認知症の基礎知識などをまとめた、家族のための支援マニュアルを同部のホームページ上で公開、全国の自治体にも配布する。荒井部長は「運

転する意味や目的を考え、運転以外の生きがいや移動手段を見つけることが大切だ」と話している。

「認知症の人と家族の会」神奈川県支部は昨年9月、会員を対象にアンケートを実施した。世話人田村加代子さんは「何十年も無事故で運転に自信を持っていた人が多く、免許の返納には抵抗があるようだ」と語る。



# 認知症ドライバーにどう向き合う？



「認知症ドライバー」。坂本一美さん（仮名）が手にするの。群馬県庁が認知症ドライバーを支援する。群馬県庁が認知症ドライバーを支援する。

中央線を越えても自覚がない。事故を起こしたことを忘れていた。認知症ドライバーの特性が。記憶力や判断力が低下し、思わぬ事故につながるおそれ、運転をやめほしいと願う家族は多い。本人とどう向き合えば良いのだろうか。

警察は2005年時点で運転免許を持っている認知症の高齢者を30万人と推定した。国土交通省の所長教授（交通心理学）



所長教授 国土交通省

# 運転の意味と 目的を考えて

## ほかの生きがい、手段探そう

は、免許保有率の高い団塊世代は意識になり、さらに増えている可能性があること指摘。研究の蓄積も乏しく「どうしたら運転行動にどう結びつくのか、そのためにどういった検査を開発していくか、まだ分からないことが多い」と話す。

昨年8月から運転免許を更新する際、75歳以上の高齢者には認知機能検査がライオットに認知機能検査が義務付けられたが、正解は判断が難しくいわれている。日本交通心理学会の運営員を務める石川智也（中央自動車学校（盛岡校））は「難わしい場合は、手動に頼りなく認知機能検査を受けさせるべきだ」と語る。

「認知症の人の家族の会」神奈川県支部は昨年9月、会員を対象にアンケートを実施した。申請人田村加代子さんは「何十年も無事故で運転に自信を持っていて人が多く、免許の更新には抵抗があるものだ」と分析。「高齢者にとって運転することは50代の若者と同じに返納させるのではなく、精神的フォローも大切だ」と語す。

坂本一美さん（74）は仮名

は、1年半前、夫の遺族に誘われて山梨県から神奈川県に戻ってきた。車好きの夫は「ハイハイ」運転免許を診断されたが、山梨県暮らしに必要だったはず、本人の知らずに更新が止まっていた。しかし夫は昨年8月、免許を更新する際に75歳以上の高齢者講習をクリアして、また「一美さんは「教習所」と「合格」と言ってもらいたかった」と後述する。

岩手県の盛岡市（仮名）は、脳血管性認知症になった父（88歳）を、免許の更新を促さざるを得なかった。父は道迷いやドブ押しまわらざるに車庫に自分勝手におかれるほどの事故を繰り返すようになっていて「他人を巻き込まない方がいい」との家族の忠告を徐々に受け入れた。唯さんは「家族は家族の事は聞かないことが多い。第三者に言われた方が効果があるかも」と語る。

国立精神医療センター長 坂本一美さん（74）は仮名

### 認知症ドライバーに多々ある特徴

- どこへ行くつもりか分からない
  - 事故を起こしたことを恐れる
  - セクションを越えて走行する
  - 交通標識や信号などの交通規則を守る気がなくなることがある
  - 一定の車間距離をとる気がなくなる
  - 車庫入れができなくなる
  - 逆走する
- （出典：国土交通省の所長教授（交通心理学））

家族のサポートや、認知症の基礎知識や事例に基づいた対策、運転行動のチェック項目などをまとめた「家族のための支援マニュアル」を同部のホームページ上で公開、全国の自治体にも配布する。

坂本支部長は「運転する意味や目的を考えた上で、運転以外の生きがいや移動の手段を思いつけることが大切だ」と話している。



# 認知症ドライバー

中央線を越えても自覚がない。事故を起こしたことを忘れていた。認知症ドライバーの特徴だ。記憶力や判断力が低下し、思わぬ

事故につながりかねず、運転をやめてほしいと願う家族は多い。本人とどう向き合えば良いのだろう。

# 免許の返納に抵抗感

警察庁は2005年時、**「どのような症状が運転点で、運転免許を持って行動にどう結びつくの**

**機能検査が義務付けられ、精神的フォロワーや代替手段が必要だ」と話す。**

いる認知症の高齢者数をか、そのためにどういう30万人と推定した。国土検査を関係すべきか、まいと心理学会の運営委員を務める石川淳也・中央自動車学校(盛岡市)社長は

たが、正確な判断は難し、坂本一美さん(74)「仮名」は1年半前、夫(75)すようになっていて「他人を巻き込まない方がいい」との家族の忠告を渋り、さらに増えているを更新する際、75歳以上「疑わしい場合は、年齢ルツハイマー型認知症と

可能性がある」と指摘。研究の蓄積も乏しい

## 精神的なフォロワーが必要

「身近な家族の話は聞かないことが多い。第三者に言われた方が効果があるかも」と話す。

### 認知症ドライバーに多くみられる特徴

- どこへ行こうとしているのかが分からない
- 事故を起こしたことを忘れる
- センターラインを越えて蛇行運転する
- 交通標識や信号などの交通規則を守る気がなくなる
- 一定の車間距離をとる気がなくなる
- 車庫入れができない
- 逆走する

【出典：国土館大の所正文教授(高齢ドライバー激増時代)など】

「認知症の人と家族の会」神奈川県支部は昨年9月、会員を対象にアンケートを実施した。世話人田村加代子さんは「何十年も無事故で運転に自信を持っている人が多

く、免許の返納には抵抗があるようだ」と分析。「高齢者にとって運転することは自立の象徴。簡単に返納させるのではな

く、精神的フォロワーや代替手段が必要だ」と話す。岩手県の佐藤隆さんのホームページ上で公開した父(88)の「免許の返納に抵抗感」の分析。開、全国の自治体にも配布する。

# 認知症ドライバークン転 中止支援へマニュアル

医療センター  
長寿セン

国立長寿医療センター長  
寿政策・在宅医療研究部の  
荒井由美子部長らによる研  
究班はこのほど、認知症の  
人に車の運転を中止させる  
際、家族がどのように対応  
したる円滑に止めさせるこ  
とが出来ののかなどについ  
てまとめた「介護者のため  
の支援マニュアル」を作成  
した。近年、高齢者ドライ

バーによる死亡事故の発生  
が増加しており、免許を持  
っている認知症患者の数は  
約30万人に上ると推計され  
ている。マニュアルは、ま  
ず身近な家族が認知症とい  
う病気に対する正しい知識  
を持つこと、運転すること  
で生じるリスクを理解し、  
地域の医療機関などと協力  
して取り組んでいくことが

重要だとし、具体的な事例  
を交えながらアドバイスを  
紹介している。  
同研究班は07年度から3  
カ年かけて認知症高齢者の  
運転に関する社会的支援策  
のあり方について調査研究  
を続けてきた。車を運転す  
る目的が性別や年代によっ  
て異なり、高齢者の場合は  
買い物や通院などの移動手  
段のほか、運転自体を「生  
きがい・楽しみ」として捉  
えている人が割に達してい  
る点などが分かった。

このため、マニュアルで  
はまず、本人が運転する目  
的や意味を知ることが重要  
だとし、運転を止めても安  
心出来るような手立てを考  
えていくことを強調してい  
る。交通手段がない地域で  
の生活や、生計のために免  
許を手放せないなど、様々  
な事情に応じた家族の対応  
事例も紹介している。  
また、認知症に対する正  
しい理解を持ってもらうた  
めの説明にもページを割い  
た。認知症の人の自立した

生活を維持することに視点  
を置き、地域全体で支援し  
ていく体制づくりにも活用  
してもらいたいとしてい  
る。

マニュアルはホームペー  
ジから無料でダウンロード  
出来る。http://www.  
nls.go.jp/department/  
dgp/index-dgp-j.htm。



# 紀伊生活

## 意味や目的を考えて

### 認知症と 運転免許 必要な精神的フォロー

中央線を感しても自覚がな... 事故を起こしたことを忘... っていた。認知症ドライバ... の特徴だ。記憶力や判断力... が低下し、思わぬ事故につな... がりかねず、運転をやめてほ... しいと願う家族は多い。本大

警察庁は2005年時点... 知症の高齢者数を30万人と推... 定した。国土館大の所正文教... 授(交通心理学)は、免許保... 有率の高い団塊世代が高齢に... なり、さらに増えている可能... 性があると指摘。研究の蓄積... も乏しく、「どういふ症状が運... 転行動にどう結びつくのか、... そのためにどういふ検査を開... 発すべきか、まだ分からない... ことは多い」と話す。

「認知症の人と家族の会」... 神奈川支部は昨年9月、会... 員を対象にアンケートを実... 施した。世話人田村加代子... さんは「何十年も無事故で運... 転に自信を持っている人が多... くなった」と分析。「高齢者... の象徴、簡単に返納させるの... ではなく、精神的フォロー... や代替手段が必要だ」と話... す。

岩手県の佐藤隆さん(54)... 同氏は、脳血管性認知症に... なった父(88)を、免許の更... 新を見送るよう説得した。父... は坂道でサイドブレーキをか... けずに駐車し自分の車にひか... れるなどの事故を起こすよう... になっていて「他人を巻き込... むまい方がいい」との家族の... 声を受けて受け入れた。隆さ... んは「身近な家族の話は聞か... ないことが多い。第三者に言... われた方が効果があるかも」... と話す。

国立長寿医療センター長寿... 政策・在宅医療研究部の荒井... 由美子部長らの厚生労働科学... 研究班は、認知症の基礎知識... や事例に基づいた対処法、運... 転行動のチェック項目などを... まとめた、家族のための支援... マニュアルを同部のホームペ... ージ上で公開、全国の自治体... にも配布する。

荒井部長は「運転する意味... や目的を考え、運転以外の生... きがいや移動の手段を見つけ... ることが大切だ」と話してい... る。

坂本一美さん(74) 〓仮名  
〓は1年半前、夫(76)の退... 職後に移り住んだ山梨県から... 神奈川県に戻ってきた。車好

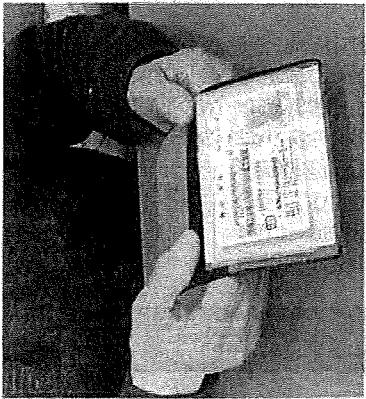
### 認知症ドライバーは 多くみられる特徴

- どこへ行こうとしているのか... が分からない
- 事故を起こしたことを忘れる
- センターラインを越えて蛇行... 運転する
- 交通標識や信号などの交通規... 則を守る気がなくなる
- 一定の車間距離をとる気がな... くなる
- 車庫入れができない
- 逆走する

(出典：国土館大の所正文教授... 「高齢ドライバー 激増時代」など)

# 増える認知症ドライバー

中央線を越えても自覚がな  
し、事故を起したことを忘れ  
ていた一。認知症ドライバーの  
家族は多い。本人とどう向き合  
っていくか。記憶力や判断力が低下  
特徴だ。



「私は認知症なのに...」。坂本一美さん  
(仮名)が手さするは、更新された米の  
運転免許証

## 運転やめてもらうには 精神的フオロワー必要

警察庁は2005年時点  
で、運転免許を持っている認  
知症の高齢者数を30万人推  
定した。国土領大の所正教  
授(交通心理学)は、免許保  
有者の高い因襲世代が高齢に  
なり、さらに増えている高齢  
性である指摘。研究の筆頭  
者として知られる坂本一美  
さん(仮名)は、また分らない  
ことが多いと語る。

昨年10月から運転免許を  
更新の際、75歳以上の高齢ド  
ライバーに認知機能検査が義  
務付けられたが、正確な判断  
は難しいといわれる。日本交  
通心理学会の運営委員を務め  
る山本洋也・中央自動車学校  
(岐阜)校長は「認知症の  
傾向は、年齢に比例して認知  
機能検査を要するようになる  
だ」と語る。

「認知症の人と家族の会」  
神奈川本部は昨年9月、会  
員を対象としたアンケートを義  
務した。世話人田村加代子さん  
は「何十年も無事故で運転に  
自信を持っている人が多く、  
免許の更新には抵抗があるよ  
うだ」と分析。「高齢者にと  
って運転することは自立の象  
徴。簡単に諦めるものでは  
なく、精神的フオロワーや代  
替手段が必要」と語る。

坂本一美さん(仮名)は「坂本」  
は1年半前、夫(仮名)の運転後  
に降りた山本洋也から神奈

川県長つてきた。車好きの  
夫が、少々のミスで認知症  
と診断されたから。山本  
さんに必要だった車は、本  
人の知らない間に売却。しか  
し、昨年5月、免許を更新  
する際に75歳以上の求め  
られる認知機能検査をクリアし  
てしまった。一美さんは「教  
習所に『不信』と言っても  
らいたから、た」後悔する。

坂本一美さん(仮名)は「  
同じ、認知症認知症にな  
った(88)歳。免許の更新を  
見送るよう頼んだ。父は嫁  
ぎやうと、し、まをけず  
に陸軍1台の車にひかれる  
などの事故を起すようになった  
こと、他人を巻き込まな  
い方がいい」との家族の忠告  
を受け入れた。唯一は

「身はな家族の世話に頼らない  
ことだ。第三者に言われ  
た方が効果があるかも」と話  
す。

国土交通省の「安全運転  
政策」推進部研究部の野井  
由美子部長らの厚生労働科学  
研究班は、認知症の基礎知識  
や事例に基づいた知識、運

転行動のチェック項目などを  
まとめた。家族のための義  
マニフレを印刷のボタン  
1以上公開、全国の自治体  
にも配布する。野井部長は  
「運転する意味や目的を考  
え、運転以外の生きがいや参  
加の手段を工夫することが大  
切だ」と話している。

### 認知症ドライバーに 多くみられる特徴

- 道に迷いやすい
- 事故を起さないうえに、  
セーフティを越えて蛇行  
運転する
- 交通標識や信号などの交通規  
則を守ることがなくなる
- 一定の車間距離をとる気がな  
くなる
- 車庫入れができなくなる
- 逆走する

(出典：国土領大の所正立教授)  
「高齢ドライバー」増え時代など

# 話題

中央線を越えても自覚がない。事故を起こしたことを忘れていた。認知症ドライバーの特徴

だ。記憶力や判断力が低下し、思わぬ事故につながりかねず、運転をやめてほしいと願う家族は多い。本人とどう向き合えば良いのだろうか。

警察庁は2005年時点で、運転免許を持っていない認知症の高齢者数を30万人と推定した。国土

省大の所正文教授(交通心理学)は、免許保有率の高い団塊世代が高齢に



所正文・国土省大教授

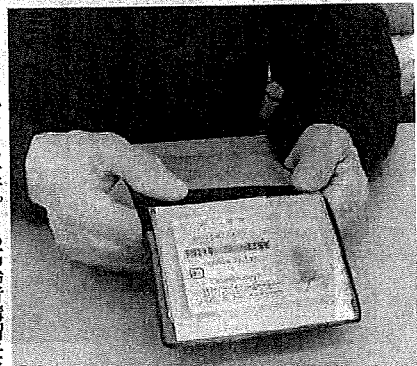
## 認知症と運転免許

# 意味や目的を考えて

なり、さらに増えている可能性があると指摘。研究の蓄積も乏しく「どういった症状が運転行動につながるのか、そのためにどういった検査を開発すべきか、まだ分からない」と話す。

昨年6月から運転免許を更新する際、75歳以上の高齢ドライバーに認知機能検査が義務付けられたが、正確な判断は難しいといわれる。日本交通心理学会の運営委員を務める石川淳也・中央自動車学校(盛岡市)社長は「疑わしい場合は、年齢に関係なく認知機能検査を受けさせるべきだ」と語る。

## 精神的フォロー、代替手段を



「夫は認知症なのに…」。坂本一美さん(仮名)が手にするのは、更新された夫の運転免許証

があるようだ」と分析。高齢者にとって運転することは自立の象徴。簡単に返納させるのではなく、精神的フォローや代替手段が必要だ」と話す。

坂本一美さん(74)は、

名は1年半前、夫(75)の退職後に移り住んだ山梨県から神奈川県に戻ってきた。車好きの夫がアルツハイマー型認知症と診断されたからだ。山小屋暮らしに必要だった車は、本人の知らない間に売却。しかし夫は昨年5月、免許を更新する際に70歳以上の人に求められ

る高齢者講習をクリアしなかった。一美さんは「教習所に『不合格』と言ってもらいたかった」と後悔する。

岩手県の佐藤隆さん(54)も同じ。脳血管性認知症になった父(88)を、免許の更新を見送るよう説得した。父は坂道でサイドブレーキをかけずに駐車し自分の車にひ

かされるなどの事故を起すようになった。他人を巻き込まない方がいい」との家族の忠告を汲み取った。隆さんは「身近な家族の話は聞かないことが多い。第三者に言われた方が効果があるかも」と話す。

国立長寿医療センター長寿政策・在宅医療研究部の荒井由美子部長らの厚生労働科学研究班は、認知症の基礎知識や事例に基づいた対処法、運転行動のチェック項目などをまとめた、家族のための支援マニュアルを同部のホームページ上で公開、全国の自治体にも配布する。

荒井部長は「運転する意味や目的を考えて、運転以外の生きがいや移動の手段を見つけていることが大切だ」と話している。

### 認知症ドライバーは多くみられる特徴

- どこへ行こうとしているのかが分からない
- 事故を起こしたことを忘れる
- センターラインを越えて蛇行運転する
- 交通標識や信号などの交通規則を守ることがなくなる
- 一定の車間距離をとることがなくなる
- 車庫入れができない
- 逆走する

(出典：国土省大の所正文教授(高齢ドライバー激増時代など))



# 高次脳機能障害 運転希望者に病院協力(安心) 教習所と連携、適否探る

## 高次脳機能障害

# 運転希望者に病院協力

脳の損傷により、時には日常活動に支障が出る「高次脳機能障害」。退院後の生活再建に必要な自動車の運転を控えなければならぬ患者も多い。患者支援を自指し、病院や自動車教習所などと連携し、運転の適否を探る取り組みが進んでいる。

(内田健司、写真も)

### \* 注意事項9か条

岡山県玉野市で会社を経営する田中浩一さん(仮名)(60)宅の、食卓に張ってあった「運転9か条」が今年初め、2年ぶりに外された。

田中さんは2007年、

脳(うそ)で倒れ、高次脳機能障害と診断された。9か条を作成したのは、入院先の岡山旭東病院(岡山市)でリハビリを担当した作業療法士、酒井英嗣さん(29)。

退院後、再びハンドルを握りたいと、自動車教習所や県の運転免許センターに通い、運転適性検査や実技指導を受ける田中さんに同行。そこで受けた助言などを参考に、下供が通る道は

スピードを控える、自分中心の運転をしない―など、田中さんの症状に合わせて注意事項をまとめた。家族が同乗しながら、少しずつ運転の機会を増やしてきたが、一人で運転しても大丈夫かと、家族が思えるようになってきたため、9か条からの卒業にこぎつけた。田中さんは、「運転には自信があったが、適性検査の結果や教習所の指導で、より注意が必要だと感じた。運転ができない生活は考えられなかったし、仕事をすることがリハビリにもなる」と振り返る。

### \* 不安抱える患者

岡山旭東病院では、入院

## 教習所と連携、適否探る



「運転9か条」を手に、患者と話す酒井さん(左)。(岡山県玉野市の患者宅で)

患者のうち7割が自宅復帰力を入れていて」と話す。そのうち8割が再び運転することを考えている。野間博光リハビリテーション課長は、「高次脳機能障害があっても、歩いたり運動機能に問題がないと、周知からはなかなか病状を理解してもらえないことが多い。特に復職と運転再開に

力を入れていて」と話す。11人いる作業療法士のうち3人を運転担当にし、患者家族、運転免許センターと連携する仕組みを作り、試行を続けている。

酒井さんは「病気の後に運転できるかどうか、患者も家族も不安に思っている。運転を再開するために

も断念するにしても、自分がどういう状況にあるかを客観的に調べてもらった上で、最後は患者・家族が判断できるように情報提供するのが仕事です」と話す。

高次脳機能障害と診断されても、運転免許更新の際に明確な基準があるわけではないが、県の自動車運転免許センターでは年20件前後、田中さんに類似した相談を受け付けている。県警運転免許課の池田浩己主任は、「運転適性検査の結果からだけでは適否は判断できない。まずは相談者がどうしたいのかの判断をした上で、相談にきてほしい」と話している。

運転機能を判定するため、昭和大学東病院(東京都品川区)では、患者の頭にセンサーを付け、脳血流を測定する機械を使っている。医師や作業療法士らが、複数の検査結果を踏まえた注視点などを助言する。

「運転と認知機能研究会」世話人代表で、昭和大学の三村将・准教授(精神医学)は、「病気によって運転にどんな影響が出るか異なり、病院での検査はあくまで運転が大丈夫かどうかの目安。安全性に問題のある患者は運転を再開する前に、自動車教習所などで実車で評価するのが望ましい」と話している。



(水・木曜日掲載)

高次脳機能障害 脳卒中などの病気が原因で、脳に損傷を受けた場合に起きる。うまく話せなかったり、新しいことが覚えられなかったり、怒りっぽくやる気が出なかったりなどの症状が見られる。症状を自覚しにくい「見えない障害」とも言われる。リハビリなどの支援が必要な患者は全国に約6万8000人おり、毎年約2800人が発症するとの推計がある。

◆運転と認知機能研究会 (<http://ogdrive.org/>)

◆認知症高齢者の自動車運転については、国立長寿医療センターの荒井由美子部長が監修した「家族介護者の支援マニュアル」(<http://www.nils.go.jp/department/dgp/index-dgp-j.htm>)が参考になる。

■認知症ドライバーの対処  
マニュアル 国立長寿医療セ  
ンター（愛知県大府市）長寿  
政策・在宅医療研究部は、車  
の運転を続けてきた高齢者が  
認知症になった場合の対処法  
を家族にアドバイスするマニ  
ュアルを作成した。無料でダ  
ウンロード配布している。

同センターが3年にわたつ  
て認知症の人が運転するリス  
クや社会支援の在り方など  
について研究してきた成果を生  
かした。認知症の原因別の運  
転の特徴や、運転をスムーズ  
にやめてもらうためのノウハ  
ウ、運転をやめた後の接し方  
などのアドバイスをイラスト  
付きで分かりやすく解説、事  
例紹介もある。

入手は同センターのホーム  
ページから。アドレスは  
<http://nls.go.jp/department/dgp/index—dgp—j.htm>

# 配布無料 認知症高齢者の運転 支援マニュアル作成

国立長寿医療センター長 による無料ダウンロード配布  
寿政策・在宅医療研究部 を開始した。

（荒井由美子部長）と厚生  
労働省研究班は、3年に及  
ぶ認知症高齢者の運転に対  
する社会支援の研究成果か  
ら支援マニュアルを作成、  
このほどインターネットに

ドライパーが認知症にな  
った場合、本人や家族介助  
者への支援が必要となる  
が、現状、支援策は充分で  
はなく、どこに相談すれば  
いいかわからないと悩む人

は少なくないという。研究  
班では、社会医学的・精神  
医学的観点から、認知症が  
原因となる運転時のリスク  
や運転継続が望ましくない  
状態になった場合の対応な  
ど、認知症高齢者の運転に  
対する課題とその社会支援  
策を研究してきた。この3  
年間の研究によって明らか  
になった成果を、社会還元  
の一環として、支援マニ  
ュアルにまとめた。

マニュアルは、①事例紹  
介②認知症の正しい理解③  
認知症と運転④認知症高  
齢者の自動車の運転に関する  
法律⑤自動車運転に対する  
人々の意識⑥運転者が認知  
症になったときの認知症高  
齢者の自動車運転への対  
応、考え方などで構成さ  
れている。

▽配布先⇨国立長寿医療  
センター長寿政策・在宅医  
療研究部ホームページ  
<http://www.nils.go.jp/department/dgp/index-dgp.htm>





# 認知症でも運転しますか

中央線を轍きても自覚がない。事故を起こしたと  
を忘れていた。認知症ドライバーの特徴だ。記憶力  
や判断力が低下し、思わぬ事故につながりかねず、運  
転を止めほしいと願う家族も多い。本人どうの回答  
は、思いのほか。

## 増える高齢ドライバー

警察は2005年時点  
で、運転免許を持っている  
認知症の高齢者数は約2万人  
と推定した。国土院大の所  
在文教授(交通心理学)は、  
免許保有率の高い同世代  
が高齢になり、さらに増え  
ている可能性もあると推  
測。近郊の警備も乏しく、こ  
ういった症状が運転行動に  
つながると、そのため  
にこうした被害を顕著すべ  
きか、まだ分らないこと  
は多い」と話す。  
昨年10月から運転免許を  
更新する際、75歳以上の高  
齢ドライバーに認知症検査  
が義務付けられたが、正

確な判断は難しいといわれ  
る。日本交通心理学会の運  
転心理学を務める石川淳也・  
中央自動車学校(盛岡市)  
社長は「緩やかに場合ば、  
年齢に関係なく認知症検査  
を普及してほしい」とこ  
ろを訴える。  
「認知症の人と家族の会」  
神奈川県支部は昨年10月、  
会費を対象にアンケートを  
実施した。世話人田村加代  
子さんは「何十年も無事故  
で運転に自信を持っている  
人が多く、免許の返納には  
抵抗があるようだ」と分析。  
「高齢者にとって運転する  
ことは自立の象徴。簡単に

## 認知症ドライバーは 多くみられる特徴

- どこへ行こうとしているのか  
が分からない
  - 事故を起こしたことを忘れる
  - センターラインを越えて蛇行  
運転する
  - 交通標識や信号などの交通規  
則を守ることがなくなる
  - 一定の車間距離をとる気がな  
くなる
  - 車庫入れができな  
い
  - 逆走する
- (出典：国土院大の所正文教授  
「高齢ドライバー・激増時代など」)

## 移動手段、どう折り合い

返納できるのではなく、精  
神的なフォローや代替手段が  
必要だ」と話す。  
坂本一美さん(仮)「匿名  
」は1年半前、夫(76)の理  
職後に移り住んだ山梨県か  
ら神奈川県に戻ってきた。  
車好きの夫がアルファロ  
ード型認知症と診断されたが  
らな。山小屋暮らしに必要  
だった車は、本人の知らな  
い間に売却。しかも夫は昨  
年10月、免許を返納する際  
に75歳以上の人に求められ  
る認知症検査をクリアして  
しまった。一美さんは「教  
習所に『合格』と言っ  
てもらった」と後悔す  
る。  
山梨県の佐藤隆さん(仮)  
「同じ」は、脳血管性認知症  
にならな父(88)を、免許の  
更新を見送るよう説得し  
た。父は教習所サート  
ンまでわざわざ往復し自分

の車にひかれなるとの事故  
を起すようにならな  
「他人を巻き込まない方が  
いい」この家族の話を涙を  
奪ひ入れた。隣人は身  
近な家族の話は聞かないこ  
とが多い。第三者に言われ  
た方が効果があるかも」と  
話す。  
国立長寿医療センター長  
兼政策・在宅医療研究部の  
荒井由美子部長らの厚生労  
働科学研究班は、認知症の  
基礎知識や基礎に基づいた  
対応法、運転行動のチェッ  
ク項目などをまとめた、家  
族のための支援マニュアル  
を同部のホームページ上で  
公開、全国の自治体にも配  
布する。  
荒井部長は「運転する意  
味や目的をきき、運転以外  
の生きがいや移動の手段を  
見つけるといい大切だ」と  
話している。



「夫は認知症なのに...」山本一美さん(仮名)が  
手にするのは、更新された夫の運転免許証





